

第1章 ひろしま都心活性化プランについて

1 策定の背景・目的

人口減少や少子高齢化の進行など社会経済情勢が大きく変化する中、持続的に都市の活力を維持・向上していくため、「集約型都市構造」への転換が求められている。また、市域を越えた地域（広島広域都市圏、広島県域、中四国地方）全体が発展し、地方創生を実現していくためには、人口、産業、都市基盤など、あらゆる面で県内最大の集積地である広島市の都心の中核拠点性を更に向上させていく必要がある。

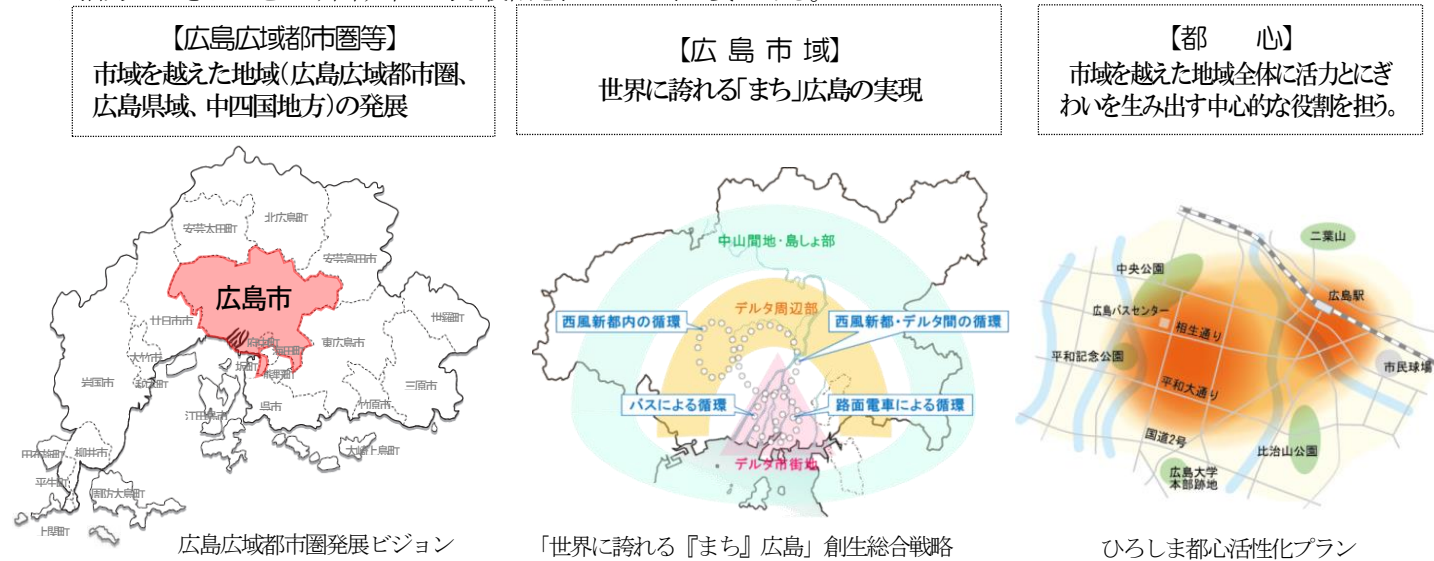
都心は都市の活力とにぎわいを生み出す中心となる場所であり、広島市の都心が市域・県域の発展をけん引するとともに、広島広域都市圏の発展に資するよう、今後、より一層、都心活性化の取組を進めるため、「ひろしま都心活性化プラン」を策定する。

2 位置付け

都心のまちづくりの方向性として、都心の将来像・目指す姿及び具体的な施策を示した計画であり、「広島市基本構想」及び「広島市都市計画マスタープラン」を上位計画とする部門計画である。

3 都心の役割

都心は、中四国地方の中核として、引き続き、市民はもとより、国内外から多くの人を惹きつけ、市域を越えた地域全体に活力とにぎわいを生み出す中心的な役割を担っていく必要がある。



4 目標年次

将来像と目指す姿：被爆100周年である平成57年（2045年）
具体的な施策：平成42年（2030年）

5 対象範囲

広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を東西の核とする「楕円形の都心」

6 構成

- 第1章 ひろしま都心活性化プランについて
- 第2章 都心の特性と課題
- 第3章 都心の将来像と目指す姿
- 第4章 基本方針と施策の方向性
- 第5章 具体的な施策
- 第6章 都心活性化の推進に向けて



第2章 都心の特性と課題

1 都心におけるまちづくりの歩み

戦後の都心における取組は、時期として4期（①戦後復興期、②高度経済成長期から政令指定都市移行期、③広島アジア競技大会開催を契機とした時期、④近年）に大別することができる。また、場所としては、主に紙屋町・八丁堀地区を中心に都市機能の充実・強化が図られてきたが、アジア競技大会開催後から近年にかけては、広島駅周辺地区での再開発が多くなっている。

2 都心の特性と課題

都心の特性（魅力、強み、現状等）として、①業務・商業、②観光・水と緑等、③道路・交通、④安全・居住等について整理し、その特性を踏まえ、都心が、市域を越えた地域全体に活力とにぎわいを生み出す中心的な役割を担うために取り組むべき課題を整理し、都心の将来像・目指す姿等を検討する参考とした。

【都心の役割を担うために取り組むべき課題】

- 更新時期を迎える建築物の建替えを促進するとともに、建替えに合わせた土地の高度利用、業務・商業機能の充実・強化等により、都心にふさわしいにぎわいあふれる空間を創出する必要がある。
- 都心が、これまで以上に国内外の人を惹きつけ、広島の魅力と平和への思いを広げていく拠点となるよう、広島ならではの個性的で魅力ある空間を創出する必要がある。
- 世界中から訪れる人が、都心を安全で快適に回遊できるよう、歩きやすく移動しやすい交通環境を形成する必要がある。
- 都心に暮らす多様な世代の人たちが、快適で穏やかに過ごせるよう、災害に強く、環境にも配慮した都市環境を形成する必要がある。

第3章 都心の将来像と目指す姿

1 都心の将来像と目指す姿

都心の特性と課題等を把握するとともに、広島市の上位計画や都心の役割を踏まえ、広島市の都心の特徴（※）である、「水と緑が豊かなまち」、「コンパクトなまち」及び「国際的な知名度」を考慮して、以下の考え方により、都心の将来像・目指す姿を描いた。

※ 都心の現状やワールドカフェ等の意見から絞り込んだ項目

広島のと心が、特徴である水と緑の豊かさやコンパクトさを生かし、訪れる人にとっては、往来しやすく回遊できるまち、住む人、働く人、学ぶ人にとっては、安全・安心で快適に生活できるまちになるとともに、国際的知名度を生かして、世界中から訪れる人と生活する人の誰もが集える、にぎわいと交流を生み出すまちとなることを将来像として掲げる。

さらに、都心に集う、市民、企業、行政などの多様な主体が、自分たちのまちに郷土愛をもち、積極的にまちづくりに関わり、広島の平和と文化を伝える架け橋となって、持続的に国内外から人を惹きつけ、世界に広島を発信することを目指す。



【将来像】

誰もが集える、にぎわいと交流の都心“ひろしま”

～様々な人が平和と文化の架け橋となり、国内外から人を惹きつけ、世界に広島を発信する～

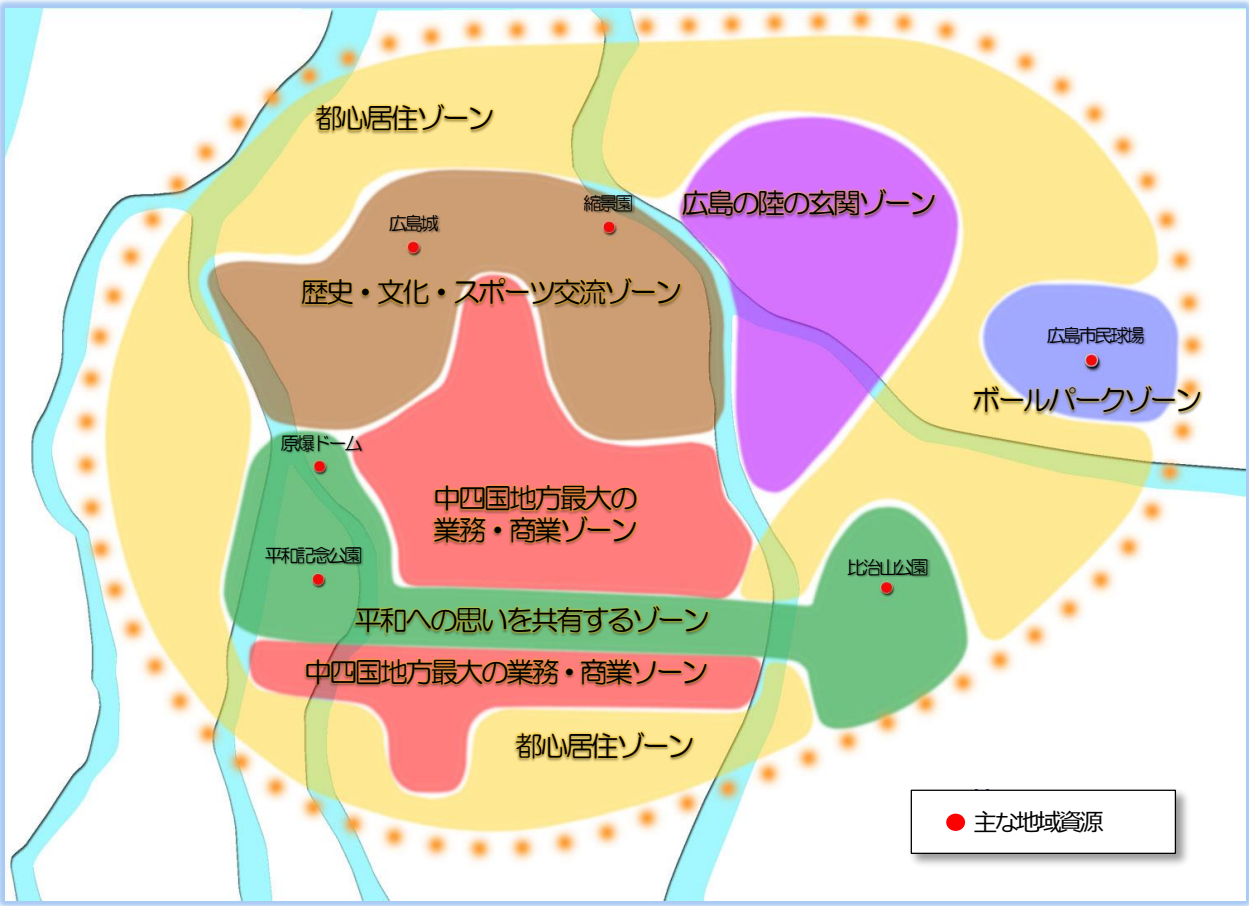
【目指す姿】

- 広島の魅力が人を惹きつけ、にぎわいと交流を生み出す
- 市民や世界中からの来訪者も往来しやすく回遊できる
- 豊かな水と緑に囲まれ、多様な世代が安全・安心で快適に生活できる

2 ゾーンごとの将来イメージ

広島市の都心が「誰もが集える、にぎわいと交流の都心^{まち}」になるためには、地域の特性や役割に応じた取組を展開し、広島ならではの魅力をより一層高めていくが必要になる。

このため、これまでのまちづくりの歩みや都心の現状を踏まえ、広島の都市のイメージとして定着している「平和」など、地域の特性をテーマとして、都心を6つのゾーンに区分し、各ゾーンの目指す将来イメージを描く。



平和への思いを共有するゾーン



- ・特徴
世界遺産「原爆ドーム」や平和記念資料館を含む平和記念公園、平和大通り、比治山公園などの地域資源があり、平和と復興を感じることができる。
- ・将来イメージ
平和を願う世界中の人々が出会い、交流し、平和への思いを共有するとともに、被害から復興した広島を実感できる空間となっている。また、平和記念公園と比治山公園をつなぐ平和大通りの空間を活用し、新たなにぎわいを生み出している。

広島市の陸の玄関ゾーン



- ・特徴
広島駅周辺地区においては、交通拠点である広島駅の利便性を生かして、再開発が進み、エリアマネジメントの体制づくりが進められている。
- ・将来イメージ
広島市の陸の玄関である広島駅の交通機能を最大限に生かして、広域的な商業・業務機能等が集積し、おもてなしの心が感じられる、新たなにぎわいと交流を生み出している。

中四国地方最大の業務・商業ゾーン



- ・特徴
企業の本店・支店や国の機関が集積するとともに、広域的な商業・文化・飲食・娯楽機能等を有する、中四国地方最大の業務・商業ゾーンである。
- ・将来イメージ
広島広域都市圏や中四国地方の発展をけん引する、業務・商業・文化・飲食・娯楽機能等が充実・強化されるとともに、広島顔となる風格ある街並みや歩いて楽しい空間が形成され、絶え間なく、にぎわいと交流が生まれている。

歴史・文化・スポーツ交流ゾーン



- ・特徴
広島城、縮景園、西国街道などの歴史資源やひろしま美術館、広島県立美術館、広島県立総合体育館などの文化・スポーツ施設があり、中央公園、基町環境護岸や京橋川の河岸緑地など水と緑にふれることができる。
- ・将来イメージ
歴史・文化・スポーツ施設といった多くの地域資源を生かして、広島ならではの水と緑豊かな都心のオアシスが形成され、人々が集い、憩い、交流するにぎわいを創出している。

ボールパークゾーン



- ・特徴
広島市民球場を核とし、国内外から人々が訪れ、周辺施設と一体となって、新たな広島の元気を生み出している。
- ・将来イメージ
広島の新たなシンボルである広島市民球場を中心に、広域的な集客による、にぎわいを創出している。

都心居住ゾーン



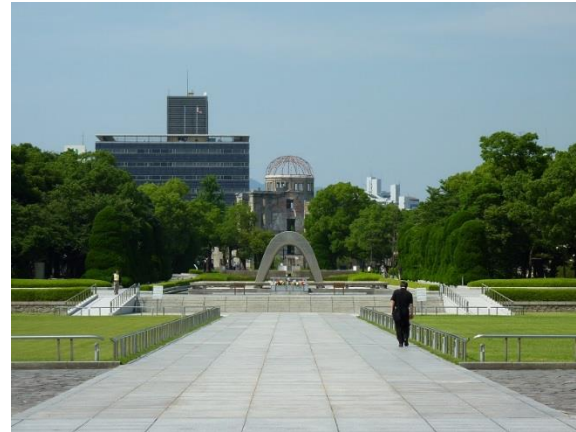
※イメージ

- ・特徴
都心の東西の核である、「広島駅周辺地区」及び「紙屋町・八丁堀地区」の周辺に位置し、高い生活利便性を享受できる居住環境である。
- ・将来イメージ
医療・福祉・子育て支援・商業等の都市機能を有する生活利便性の高い施設が近接し、高齢者がひとりでも不自由なく安心して生活でき、子どもたちがのびのびと育つ環境が整い、様々な人が住みたいと思うまちになっている。

3 都心回廊づくり

広島市の都心が「誰もが集える、にぎわいと交流の都心^{まち}」になるためには、ゾーンごとの将来イメージを実現することに加え、各ゾーンがつながり、にぎわいと交流を都心全体に広げていくことが必要である。

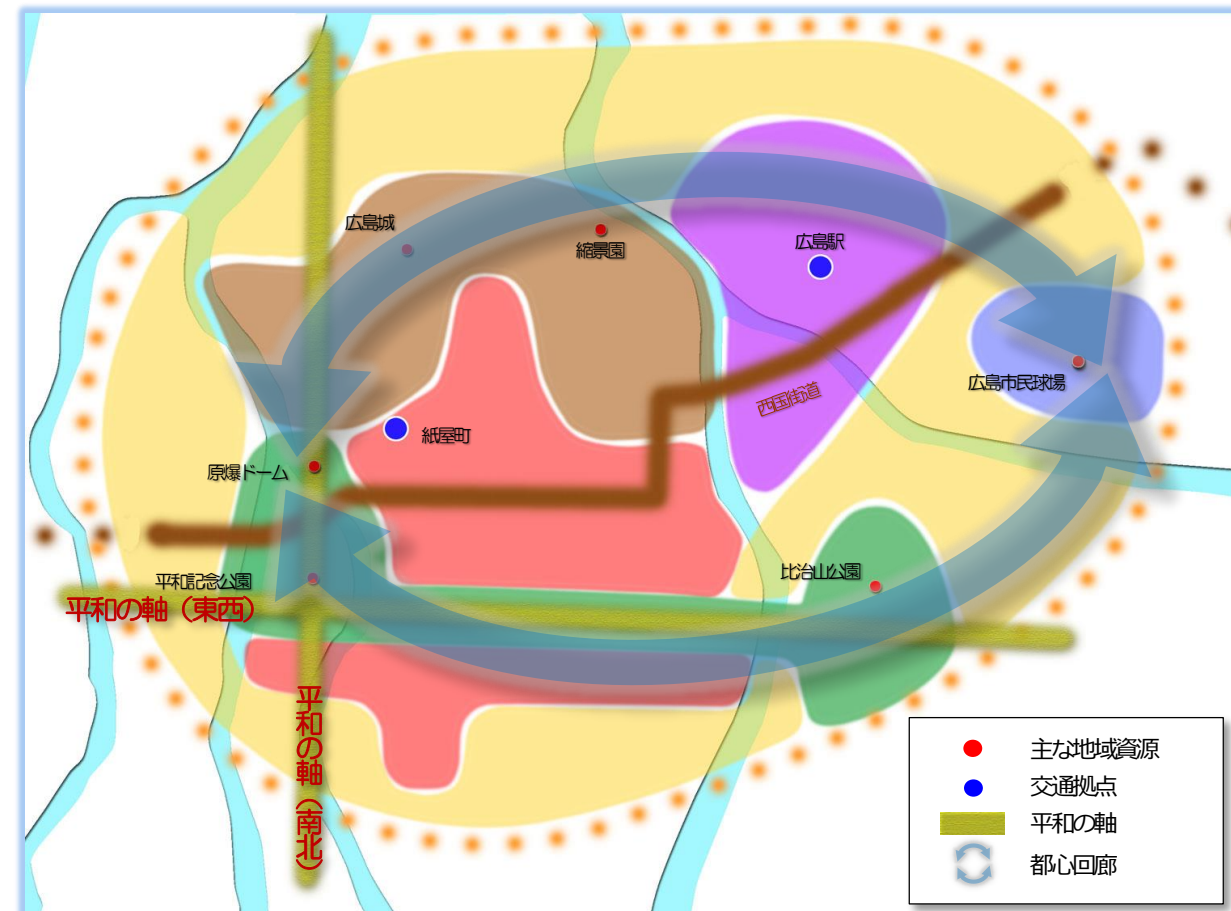
このため、平和記念公園を設計した丹下健三氏らの構想に基づく「南北の軸」と、平和大通りによる「東西の軸」を平和の軸として、都心に存在する平和記念公園、広島城、広島市民球場、比治山公園などの地域資源^{めく}を廻る「都心回廊」という考え方の下、「人が中心となる回遊ネットワーク」、「おもてなしを創出する水・花・緑のネットワーク」の形成を目指す。



平和の軸（南北）
（平和記念資料館本館から原爆ドーム方向を望む）



平和の軸（東西）
（平和大通り）



(1) 人が中心となる回遊ネットワーク

徒歩、自転車及び公共交通により、市民や世界中からの来訪者など誰もが安心して、楽しく移動できるよう、交通拠点である広島駅や紙屋町と各ゾーン、またはゾーン相互をつなぐ歩行者ネットワーク・自転車ネットワークの整備、公共交通ネットワークの充実・強化などにより、車依存社会から脱却し、人が中心となる回遊ネットワークを形成する。

将来イメージ

誰もがスムーズに回遊できるまち

分かりやすい案内サインや案内情報、ユニバーサルデザインに配慮した公共交通などにより、世界中からの来訪者をもてなし、誰もが迷うことなく円滑で快適に目的地に移動することができるまちになっている。



歩いて楽しい人中心のまち



市民や世界中からの来訪者が、自動車交通を気にすることなく自由に散策でき、食文化など広島ならではの魅力的な店舗が建ち並び、歩いて楽しい空間が形成されている。

歩きやすい歩行空間

歩道と車道の段差を小さくするとともに、低縁石やボードの設置により歩行者の安全を確保するなど、安全で快適に回遊できる歩行環境が整備され、誰もが歩いて楽しく回遊できるようになっている。



誰もが快適にめぐることができるまち



誰でも手軽に利用できるレンタサイクルや自転車走行空間を整備するなど、市民だけでなく、世界中から訪れる来訪者も、観光施設などを快適にめぐることができるようになっている。

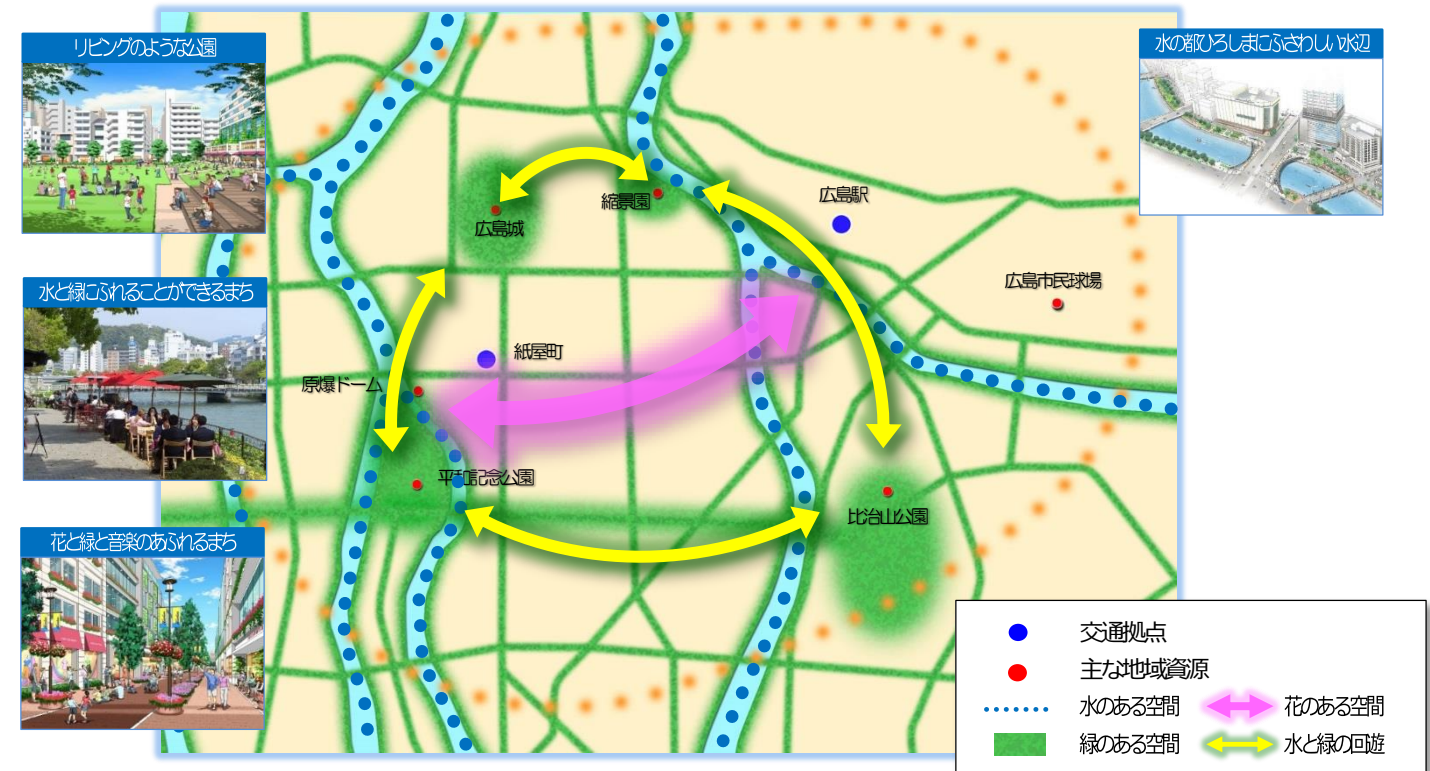
誰もが利用しやすい交通拠点



おもてなしの玄関である広島駅が、乗り継ぎしやすく、分かりやすい交通拠点となっており、世界中からの来訪者が、次の目的地まで安心して移動することができる。

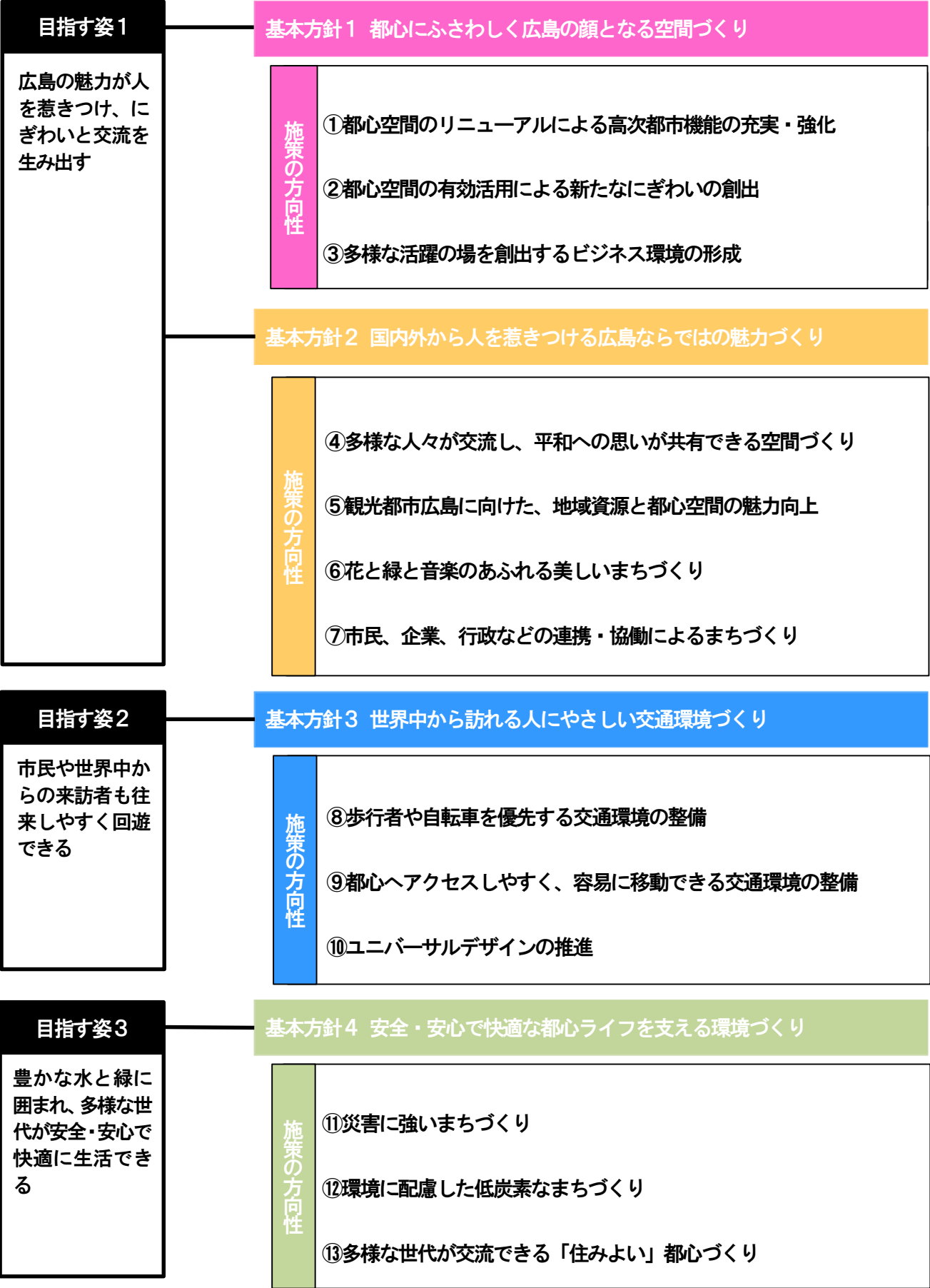
(2) おもてなしを創出する水・花・緑のネットワーク

都心は、「市街地を流れる河川」、「平和大通りなど戦災復興により整備された道路」及び「河岸緑地・比治山公園などの公園緑地」といった、水と緑に囲まれ、恵まれた都市環境にある。こうした特徴を生かして、河岸緑地・道路などの緑化、花による演出、水上交通の充実、水辺のライトアップなどにより、昼夜を通して、おもてなしを創出する、水・花・緑のネットワークを形成するとともに、音楽のあふれるまちづくりに取り組む。



第4章 基本方針と施策の方向性 及び 第5章 具体的な施策

目指す姿に沿った基本方針と施策の方向性



基本方針1. 都心にふさわしく広島の顔となる空間づくり

都心が活力とにぎわいを生み出す空間となるため、広島駅周辺地区及び紙屋町・八丁堀地区を中心に、建築物の建替えを促進するとともに、都心にふさわしいにぎわいあふれる空間の創出を図る。

施策の方向性①都心空間のリニューアルによる高次都市機能の充実・強化

- ・中四国地方の発展をけん引する商業・ビジネス・文化芸術等の高次都市機能の一層の集積を図る。
- ・民間開発を誘導する支援策の充実を図るとともに、民間活力を活用した都心空間のリニューアルを進める。
- ・地域の多様性を生かしながら、良好な景観の形成を図る。



■都心空間のリニューアル



■まちなかのオープンスペースによるにぎわい創出のイメージ

- ☞先導的な取組1 再開発を促進するための支援
- ☞先導的な取組2 官公庁街の土地利用の在り方検討と民間活力の活用

施策の方向性②都心空間の有効活用による新たなにぎわいの創出

- ・道路、公園、河川等の公共空間を積極的に活用して、新たなにぎわいの創出を図る。
- ・建築物の低層階に、物販、飲食等のにぎわい創出に寄与する店舗を誘導し、にぎわいの連続性の確保を図る。



■にぎわい空間が連続している通り



■公共空間を活用したイメージ（公園）

- ☞先導的な取組3 都心の地区計画の見直し
- ☞先導的な取組4 公共空間を活用したにぎわいづくり

施策の方向性③多様な活躍の場を創出するビジネス環境の形成

- ・サービス産業をはじめとする成長分野でのビジネスの創業支援や企業の誘致・育成を図る。
- ・「チャレンジする人が集まる常設の場」等により、多様な活躍の場を創出するビジネス環境の形成を図る。
- ・高度な技術・技能や経営感覚を持ったプロフェッショナル人材等、イノベーションを生み出す多彩な人材の育成と集積を推進する。

- ☞先導的な取組5 イノベーション・エコシステム*の構築

*産学官など多様なつながりの中で、新たなアイデアや価値が創造され、新しい事業が次々と生まれる事業環境



■魅力的なビジネス環境（イメージ）

基本方針2. 国内外から人を惹きつける広島ならではの魅力づくり

都心が国内外の人を惹きつけ、広島の魅力と平和への思いを広げていく拠点となるため、広島ならではの個性的で魅力ある空間の創出を図る。

施策の方向性④多様な人々が交流し、平和への思いが共有できる空間づくり

- ・より多くの人々が、原爆ドームをはじめとする被爆建物等を訪れ、被爆の実相に触れるとともに、復興した都市の力強さを実感し、平和への思いを共有することができるよう、世界中の人々を迎える魅力的な環境づくりを推進する。
- ・核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を世界に広げるため、被爆地広島での体験や交流を行う機会の提供や人材育成を進める。



■平和への思いを共有する場



■比治山公園から平和大通りを望む

☞先導的な取組 6 比治山公園「平和の丘」構想の推進

☞先導的な取組 7 平和記念公園における環境整備

施策の方向性⑤観光都市広島に向けた、地域資源と都心空間の魅力向上

- ・広島城、西国街道、地域性豊かな文化イベント等の資源を活用し、来訪者に広島歴史・文化を感じてもらい、その価値や魅力を将来世代に継承させる。
- ・広島が誇る3大プロ（広島交響楽団、サンフレッチェ広島、広島東洋カープ）等の資源を生かし、まちの活力を創造する。
- ・潤いとにぎわいのある空間の創出など、「水の都ひろしま」づくりを推進する。
- ・来訪者の受入環境の向上を図る。
- ・市民の誰もが、広島の魅力や平和の心を伝えることができ、新しい交流を生み出す、広島ならではの「おもてなし」を推進する。
- ・中四国地方を代表する商業集積地としての魅力をより一層高める。
- ・国際会議等MICEの誘致を進める。



■広島市の歴史的資源（広島城）



■地域特性を生かしたにぎわいイメージ



■水の都ひろしまにふさわしい水辺

☞先導的な取組 8 外国人旅行者へのホスピタリティの向上

☞先導的な取組 9 美しい川づくり

施策の方向性⑥花と緑と音楽のあふれる美しいまちづくり

- ・まちなかで花や緑を育むことを通じて、市民一人一人が自ら来訪者をもてなそうとする気運を醸成するとともに、花と緑あふれるまちづくりを進める。
- ・音楽イベントの充実を図るなど、日常的に音楽を楽しめる場を作り、潤いと安らぎと癒しを実感できる美しいまちづくりを進める。



■花と緑と音楽のあふれるまちのイメージ

施策の方向性⑦市民、企業、行政などの連携・協働によるまちづくり

- ・市民、企業、行政などの連携・協働によるまちづくりを進める。
- ・良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための活動を地域が主体的に行うエリアマネジメントを促進するとともに、複数の組織の連携を図る。



■地域主体のまちづくり

☞先導的な取組 10 エリアマネジメント活動の支援

基本方針3. 世界中から訪れる人にやさしい交通環境づくり

世界中から訪れる人が、都心を安全で快適に回遊できるよう、歩きやすく移動しやすい交通環境の形成を図る。

施策の方向性⑧歩行者や自転車を優先する交通環境の整備

- ・安全で快適な歩行環境の整備などにより、市民や来訪者が楕円形の都心を歩いて楽しく回遊できる環境づくりを進める。
- ・自転車ネットワークの整備や駐輪場の整備などにより、自転車で快適に移動できる環境づくりを進める。



■人に優しい道路のイメージ



■民部路上駐輪場

☞先導的な取組 11 楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備

☞先導的な取組 12 駐輪場・駐車場附置義務の見直し

施策の方向性⑨都心へアクセスしやすく、容易に移動できる交通環境の整備

- ・都心周辺や郊外、さらには市域外から都心への公共交通ネットワークの充実・強化など、都心へのアクセス向上を図る。
- ・路面電車やバスの定時性・速達性を確保し、都心内を容易に移動できる環境づくりを進める。
- ・交通拠点である広島駅や紙屋町において、結節機能の強化や交通機関相互の連携強化など、利便性の向上を図る。



■広島駅から稲荷町方面



■猿俣橋から広島駅方面

☞先導的な取組 13 広島駅南口広場の再整備等

施策の方向性⑩ユニバーサルデザインの推進

- ・歩道の拡幅や段差解消等のバリアフリー化、来訪者にも分かりやすい案内・誘導サインの設置等により、誰もが安心して移動できる環境づくりを進める。
- ・低床路面電車や低床バスの導入を図るとともに、交通結節点やバス停等における案内情報の充実など、分かりやすく使いやすい公共交通を目指す。



■分かりやすい案内・誘導サイン



■低床路面電車

基本方針4. 安全・安心で快適な都心ライフを支える環境づくり

都心に暮らす多様な世代の人たちが、快適で穏やかに過ごすことができるよう、災害に強く、環境にも配慮したまちづくりを進める。

施策の方向性⑪災害に強いまちづくり

- ・建築物の耐震性の向上、浸水対策の推進等により、災害に強いまちづくりを進める。
- ・市民や企業等の防災意識の高揚に努めるとともに、自主防災体制づくりを推進し、継続的な地域防災力の向上を図る。

- ☞先導的な取組 14 建築物の耐震性の向上
- ☞先導的な取組 15 浸水対策の推進
- ☞先導的な取組 16 防災まちづくりの推進



施策の方向性⑫環境に配慮した低炭素なまちづくり

- ・省エネルギー設備や再生可能エネルギーの導入促進等により、環境負荷の少ないまちづくりを進める。
- ・道路等のオープンスペースの緑化を推進するとともに、中央公園や平和記念公園、比治山公園、河岸緑地などにおいて、緑の適正な保全と育成に努め、「水」と「緑」のネットワークの形成を図る。

- ☞先導的な取組 17 スマートコミュニティの推進



■低炭素なまちづくりのイメージ

施策の方向性⑬多様な世代が交流できる「住みよい」都心づくり

- ・多様な世代のライフスタイルに応じた都心居住を進めるため、住宅と業務、商業などの機能が適正に調和した、居住と生活サービスの近接した居住環境の構築を図る。
- ・地域コミュニティの活性化、高齢者の見守り活動や居場所づくりの推進、子どもの遊び場の充実など、多様な世代が安心して暮らせる環境づくりを進める。
- ・建物のバリアフリー化に努め、全ての人々が安全に安心して暮らせ、活動できる環境づくりを進める。



■多様な世代が居住する住宅と高齢者向けサービス施設、子育て関連施設が入居する複合住宅（京橋町地区第一種市街地再開発事業）



■冒険遊び場づくり（中央公園・もともち自遊ひろば）

第6章 都心活性化の推進に向けて

都心の活性化を進めるためには、住民（町内会などの地縁組織やNPOなどの市民団体を含む）、企業（経済・産業団体や商店会などを含む）、行政といった様々な主体が、「自分たちのまちは自分たちで創る」という考えの下に、それぞれの役割を果たしながら、積極的に都心のまちづくりに取り組むことが重要である。まちづくりに関わる様々な主体が、本プランに掲げた都心の将来像、目指す姿を共有し、実現することにより、市域を越えた地域全体に活力とにぎわいを維持・発展させるよう、住民、企業、行政の連携・協働を図る。

本プランで掲げた施策の方向性及び具体的な施策は、平成 57 年（2045 年）を目標とする都心の将来像、目指す姿を見据え、平成 42 年（2030 年）に向けて取り組むものである。今後、社会経済情勢の変化等により、地域全体を取り巻く環境が大きく変化することも考えられることから、こうした環境の変化に的確に対応するため、PDCAサイクルの各プロセスを実施しながら、必要に応じて施策の方向性及び具体的な施策の見直しを検討する。

